

岩地帯になる。右俣同様にまったく平凡かと思っていたら、源頭近くになって滝が出てきた。まずは3m。右岸を直登。しっかりしたスタンスがある。そのあとも小滝が続く。いずれもホールド豊富。小滝群を越えた先が源頭であった。

二俣より下部はずっと花崗岩地帯である。しかしこの沢に限っては滝が少なく、シャワーを浴びつつクライミングダウンした4m滝が唯一であった。9:50下降終了。

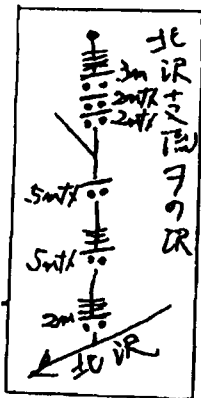
(記・ )

【タイム】 右俣下降開始(8:45)→二俣(9:05)→左俣終了(9:25)→二俣(9:40)→下降終了(9:50)



### 北沢支流ヲの沢

1989年7月8日



ヲの沢(仮称)は短い。出合の小滝からしばらくは傾斜が緩やかであるが、そのあと5個の小滝が続いて、一気に高度を稼ぐ。最後の小滝を登れば、すぐ源頭になる。源は他の多くの沢と同様、岩屑の下から湧きだす清水である。

5個の小滝群はすべて直登した。いずれも花崗岩の滝で、安定したホールドがあるため、直登は楽である。(記・)

【タイム】 遡行開始(10:00)→終了(10:10)

### 宮川支流一ノ沢(仮称)

1989年8月12日

五ノ沢(仮称)源頭から尾根づたいにかすかな蹊跡をつたって、一ノ沢(仮称)源頭の小ピークに出る。このピークは、山頂部が岩場となっていて樹林がなく、展望がよい。眼前に五来山と大笹山がそびえ、北沢流域がすべて見渡せる。6:05下降開始。

樹林帯の中を5分程下ると、一ノ沢の源頭に出る。そしてすぐ2mの小滝。フ